

農業と田舎暮らし～農の風景を未来に繋げるための試み～

1210159 高橋 寿楽

指導教員 渡辺菊真

高知工科大学 システム工学群 建築都市デザイン専攻

が困難となった方は孤独感を抱きながら住宅内で過ごしている。

1. はじめに

私の故郷である徳島県の郊外周辺では、高齢化と過疎化により耕作放棄地が増え、田舎ならではの農のある風景が年々なくなっている。その状況を仕方ないと眺めているだけでなく、積極的に新規就農者を迎え入れ、既存農家と共同しながら農の風景を未来に繋げることができないだろうか。

2. 目的

本設計では、新規就農者を迎え入れ、未来に繋がる住まいづくりを通して、農の風景を持続させていくことを目標とする。

3. 対象敷地と農家

1) 地域の特徴と現状

敷地として徳島県徳島市不動町を選定する。この地域は、農家の集まりと田畑だけで構成された平地の農村である。広く農地を確保するために、農家は密集して建てられている。そのため、集まって話ができるような場所が確保されておらず、近接する農地間での繋がり以外を持ちにくい。近年では、農業を引き継ぐ人がおらず、農作業が困難となった場合、農地を貸し出し対応しているが、人手が足りず耕作放棄地となっているところがある。



図1. 敷地周辺図

(※地理院地図に対象敷地等を追記して掲載)

2) 農家の特色と現状

この地域では、母屋、納屋、農機具をしまう倉庫の3つがコの字に配置されている住宅が多い。元来は、母屋と納屋がL型に配置されていたが、大きな機械の導入により倉庫が造られた。コの字にすることでプライベートな空間が守られているのは良いが、逆に家族以外は入って行きづらく、農作業

4. 計画と設計の手順

- 1) 既存農家を改修し、新規就農者が持続的に生活可能な農家住宅を設計する。
- 2) 農地還元することが困難な空地を対象に新規就農者が持続的に生活可能な新築の農家住宅を設計する。
- 3) 田畑領域にある使われなくなった豚舎を改修し、新規就農者、既存就農者に繋がりを持たせる憩いの場を設計する。
- 4) 1)～3)の建築づくりを通して、農の風景を未来に繋げるサイクルを一案として示す。

5. 設計の内容

1) 農家住宅〈改修〉

母屋を、通りから見やすい西側からアクセスできるようにし、そこに縁側を設ける。この縁側を、居住者が必ず使用する廊下に面して設けることで、外部との繋がりが生まれ、住居内での孤独感を緩和させた。逆に、住居内では、コの字配置でプライベートな空間を守る構成をとり入れ、土間空間としてのコの字と、床空間としてのコの字を向かい合わせることで、中央に家族だけのプライベート空間が生まれる。

〈コの字の考え方〉

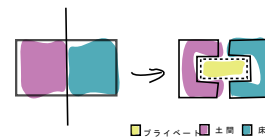


図2. 空間構成のイメージ図



図3. 敷地図兼1階平面図

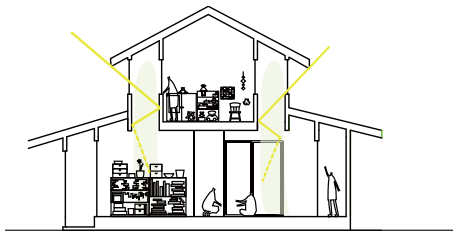


図4. 南北断面図 1/200

2階外周の床を抜くことで、1階広間に光を導き、中心部のプライベート空間を際立たせた。

3) 農家住宅（新築）

空き地を利用して、通りから見やすい南西に客間を設けた。改修案と同様に必ず使用する廊下と結び付けた。これにより、地域との繋がりを持たせる空間が出来た。また、住居内でも改修案と同様の構成とし、土間、床空間両側に入口を設け、2つのコの字空間の利用をより明確に区別した。

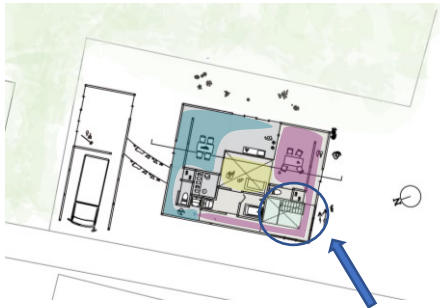


図5. 配置図兼平面図

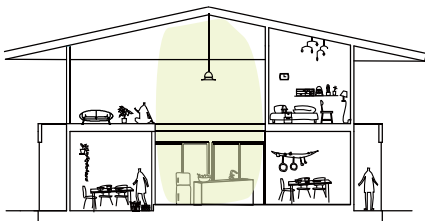


図6. 東西断面図 1/200

中央に吹き抜けを設けることで、プライベート空間を際立たせた。

4) 田畑の中のコミュニティ施設（豚舎の改修）

憩いの場だけでなく、水回り機能を取り入ることで簡単な調理、昼食も取ることが出来る。ここを利用することで、一度家に帰るという手間が省け、農作業を効率的に行える。さらには、これまでなかった集う場所が出来ることで、地域の人々の繋がりが生まれる。

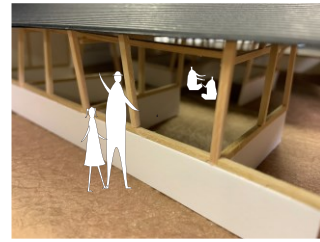


図7. コミュニティ施設の使用イメージ

6. 農の風景を未来に繋げるサイクル案

たくさんの農地を持っていた現役の農家の方が歳を取り、農作業が困難になって、家や畑を手放さざるを得なくなる。そのような場所を新規就農者のために改修、新築をし、農地を受け継いでいくサイクル案を下記に示す。こうすることで、空き地や空き家を新たに増やさず、かつ、耕作放棄地とせず農地を受け継ぐことができる。

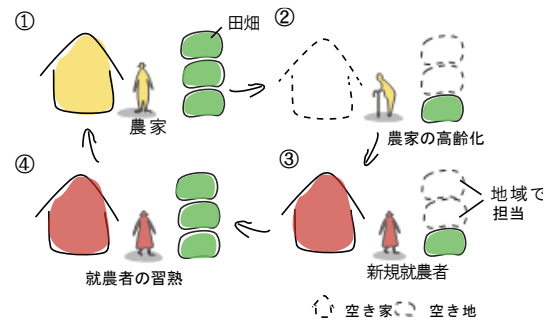


図8. サイクル案のイメージ

7. まとめ

新規就農者のための住宅を、改修と新築の2ケースで提案した。両者とも、地域と関わりを持てる空間を道側に設けて閉鎖的になりすぎないようにした。その一方で、内部ではコの字配置を生かして中央部でプライバシーが守られる空間とした。また、コミュニティ施設を設けることで既存農家との繋がりを持てる場を提案した。これらの提案により、農を続けていけるサイクル案を示した。

サイクルが成り立つことで、農のある風景を未来に繋げていけたらと願っている。



参考文献 Google マップ: <https://www.google.co.jp/maps/>

国土地理院地図: <https://maps.gsi.go.jp/>